

互いの会社の立ち上げまでの基底の時間に

ブライアン・アトキンソン氏

Bryan Atkinson



私はイギリスでSyska & Hennessyに雇用され、N.Y.のオフィスに来たのは1968年の1月の事でした。エンジニア、コンサルタントの会社として当時は非常に魅力的でした。

イギリスで教育を受け、多くの国籍の人達と出会い友達になっていました。この会社には私が外国人であると同時にまた、海外からの社員が多く働いているという事で、他にない可能性がありました。彼らはそれぞれが個性的で、私はその出会いを楽しんだものでしたが、それまでに一度も日本人とは会った事はありませんでした。

その年の9月に石黒氏を紹介された事をはっきりと覚えていて、日本人は、もしくは少なくとも彼が世界で一番礼儀正しい人間だと思いました。彼がお辞儀をした時、返し方が分からず恥ずかしかった事を覚えています。正しいやり方を知らずにお辞儀をする事は彼にとっても失礼だと思い、しない事に決めました。その後私達はとても仲のいい友達となり、35年経った今でも交流は続いています。

彼が実際によく書いていた「日本語」も、どうしても複雑なものにしか見えず、感心しました。彼が現場視察を担当していた時、計算書（膨張タンク容量）をプロジェクトチームにすぐ提出するように言われました。その後その資料を見ると日本語で仕上がっていて、私達には全く“意味不明”なものでした。それらの計算書は設計図書に含まれる為には必要なもので、私は楽しませてもらいましたが、会社側はそう捉えていない様でした。

また彼は周りが計算尺を使っていた時に「そろばん」を使っていました。皆で古すぎると決めてそれを伝えましたが、彼は同僚の一人と早計算に挑戦しました。誰一人、計算機を使って彼を負かすことは出来ませんでした。

彼がSyska & Hennessyにいた2年の間、日本の社会を多少なりと知る事になりました。彼だけでなく、日本という国全体が礼儀正しいのだと理解する事になりましたし、サムライのファンにもなりました。

また、後に彼は「PES」、私は「AKF」と個人の会社を立ち上げる事が出来るまでの、素晴らしい知識と経験を学び、基底を与えてくれた時間だったとも言っておかなくてはならないでしょう。

Bryan Atkinson氏はASHRAE HAND BOOK 1990年版の「ALL AIR Systems」の執筆者として、選ばれたすばらしい業績を持つエンジニアである。



Syska & Hennessyの同僚